

日本をキリストへ 協力

13

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1

TEL 03-292-3001

神と共に働く

協議会副会長 K・マクビーティ

文書伝道ノ 映画伝道ノ 音楽伝道ノ これらは、現代の人々に福音を届けるためのすばらしい手段です。

しかし、これらの伝道がもたらす霊的実りが、あまりにも少ないように思われることがあります。シヨールムにある美しい新車のように、これらの働きはすばらしく見えるかもしれませんが、ただ、エンジンを発火させるカギがなければ、どこにも行けませんし、また、あなた自身の力で押すことなどはとてもできないことです。

私たちの伝道において、必要なカギとは何でしょうか。使徒パウロは彼の伝道におけるカギがわかったとき、こう言いました。

「このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています」（コロサイ一・二九）

パウロは自分で計画を立てたり、自分のことばで語っ

たりはしませんでした。彼は信仰によって、神ご自身が彼のうちに生き、働いてくださるようになったのでした。そしてこれが、私たちの現代の伝道にも必要な、神さまが私たちのうちにあるにあって働いてくださるためのカギなのです。

その時だけ「エンジン」は動き始め、神さまの栄光が、私たちの本、トラクト、ビデオ、フィルム、そのほかさまざまなかたちの伝道方法を通して現わされるのです。

この意味するところは、神と共に働くということです。私たちの任務は、「キリストを宣べ伝え……すべての人を、キリストにある成人として立たせる」（コロサイ一・二八）ことです。

私たちは、キリスト教事業の「広報部」ではありません。私たちは、最高の神さまのしもべなのです。そして私たちは、神ご自身が私たちの計画を立て、思いを起こし、日常の働きに取り組ませてくださるという、言いようもない特権にあずかっているのです。

このことが、どれほどストレスやプレッシャーを取ってくださることでしょう。もし、私たちがこの秘訣を本心に学び取ることができたならば、私たちが召されている働きの、今までにない新しい力と結果をもたらすことになるでしょう。

響きのある伝道を

日本リバイバル・クルセード主幹
イエス福音・新城教会牧師

滝元 明

「五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らの家全体に響き渡った。

また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みな響きに満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話し出した」

(使徒二・一—三)

十日間の祈りのあと、ペンテコステの日に弟子たちの上にすばらしい聖霊が下ったわけですが、この聖霊が下ったとき何が起こったのでしょうか。「天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、……炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった」と聖書にあります。このように、聖霊が臨まれた時には、大きな響きがあったのです。

私は、今の日本の宣教に欠けているものは何かというと、この「響き」だと思います。

日本のキリスト教会はあまりにも静かすぎます。ですから、もっと聖霊に満たされて、教会の中に

響きが起こりたくてはいけない、そういう現象が起きなくてはいけないと思っています。

しかし、この研修会に来て燃やされました。昨日のアーサー・ホーランド先生のお話には響きがありました。また、本田弘慈先生が来年十月に武道館でクルセードを開かれるということですが、響きを感じます。最近には日本にも、たしかに聖霊様が働き始めてくださっていることを感じます。

八月に大阪城ホールで行なわれた「ジェリコの歌声」の集会に私も出ましたが、本当に感動しました。多くの青年たちが、断食したり、一生懸命準備して、祈って祈って、本当に主に期待して行なったのです。特別の組織の力もないわけで、神さまに信頼して行ないました。そして主は祈りを聞いてくださって、あの野外音楽堂の中に、クリスチャン新聞の発表によると、五千三百人が集まりました。どこから来るのかびっくりするくらい多くの若者たちが、そしてお年寄りまでもがみんないっしょになって、五時間半の賛美をしたのです。そこには主のご臨在があり、響きがありました。

私も今年の五月にインドネシアにまいりましたが、賛美のリバイバルの霊が注がれていて、何ともいえない喜びに満たされていました。それは作爲的なものではなく、聖霊が臨まれていると言わざるを得ない光景でしたが、「ジェリコの歌声」でも同じでした。聖霊が臨まれているから、みな歌わずにはおれない。終わる時間がきても、やめることができないのです。私はそれを見てい



て、たしかに聖霊が、激しい風のような響きが始まっていると思いました。

こういう響きが全国あちらこちらで起きなくてはなりません。いたるところで伝道集会が開かれクルセードが開かれ、大きな集まりが行なわれることが大事だと思います。

インドネシアでは、バンドンでも、ジャカルタ



でも、次々と大きな集会が開かれ、国中に響きがありました。ですから、多くの人たちが、神さまの働きに対して期待を持っています。

また韓国でも、ビリー・グラハムやビル・ブライトが来ては、あのヨイド広場に百何十万もの人が集まって集会が開かれています。そして、ソウルの山の上に登ると、夜などは十字架のネオンがまるで林のように立っているのを見ます。これも響きです。

しかし残念なことに、日本ではまだそこまではいっていません。ですから、聖霊が臨んで激しい響きがあったように、これから、日本に大きな響きが起こるようにと心から願っているのです。

聖霊に満たされた時、弟子たちは一斉に声を上げて、叫んで、伝道を始めました。すごい響きですね。ペテロなどは三回も主を否んでしまい、また、イエスさまが最初に現われた時でも他の人たちを恐れて、戸を閉じて震え上がっていた男たちだったのに、聖霊が臨まれるや、大胆に伝道を始めたのでした。

ですから、日本のリバイバルというのも、本当にクリスチャンたちがみな恵まれて、大胆な思い切った伝道をするようになったら、大きなことが起こると思います。

しかし正直言って、現状では起こらないとしか言いようがありません。日本の教会は伝道していません。したとしても、春に一回、夜に一回、それで終わり。それではいけない。

本当にクリスチャンたちが立ち上がり、日本に

神さまの栄光が現わされることを期待して、信じていきたいと思えます。

私は新城市で伝道を始めた時から、一つの幻を持ち続けてきました。それは、響きのある伝道をしたということでした。そして大胆な信仰を与えていた大きながらやってきて、九年前、五百人が収容できる美しい最高の会堂を完成させていたきました。その会堂ができてから、新城市の市民の人たちがずいぶん教会に来るようになりました。昨年一年間だけでも、伝道集会に来た新しい人は五百人以上に上りました。

魅力のある、響きのある働きを行なっていけば必ず人は教会に来るようになります。教会は魂を獲得できるようになります。伝道団体の働きも同じだと思ふのです。

私たちの託されている福音を伝えるという使命を、響きをもって、真剣に、勤勉に励んでまいりましょう。

(このメッセージは、さる9月8日軽井沢恵みシャレーでの一泊研修会で語られた講演を、抄録したものです)

活動の報告とお知らせ

■一泊研修会「テーマ・二十一世紀へ向けて伝道団体の使命」開催

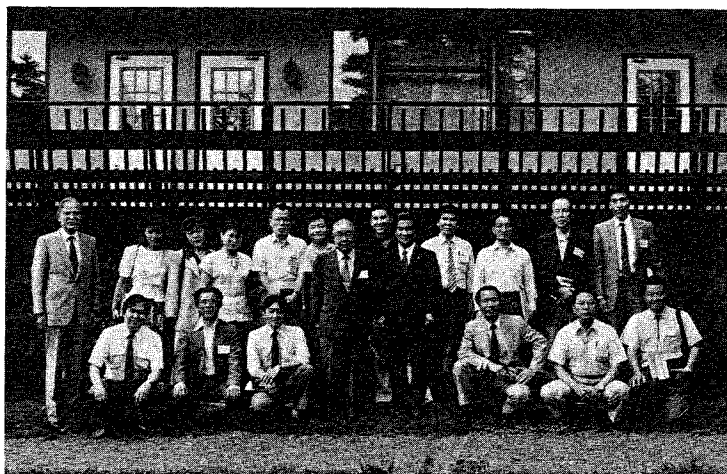
九月七日、八日、軽井沢恵みシャレーにおいて、滝元明師を講師に迎え、一泊研修会がもたれました。参加者は二十二団体より二十六名。滝元師の二回の魂に響き渡るような講演（その一部を二、三頁に紹介しました）のほかに、本田弘慈会長、アーサー・ホーランド師、久保英夫兄（いのちのことば社）のメッセージ・奨励や、ミクタム、新生運動、PBA、国際ナビゲーターのそれぞれの働きを通しての証しがあり、たいへん恵まれた研修会となりました。会場もたいへん良かった、と参加者の間で好評でした。

■一日フェスティバル「婦人講演会」と「賛美と交わりの集い」開催

さる十月二十一日（土）、毎年恒例の伝道団体フェスティバルが開かれました。今年もOCCビルが工事が続いているため、一日だけの催しでしたが、午前中の安部北夫先生の講演に一一〇名、午後の集いには八十五名の出席者がありました。「人生の危機に臨んで」と題して講演を行なった講師の安部先生は、東京外語大の名誉教授、早稲田大の講師などの教職にある一方、消防審議会委員などを務める防災の専門家でもあります。また、

牧師の家庭に育ち、ご自身も現在、日本基督教団更生教会の役員を務める熱心なクリスチャンです。その経歴から想像されるように、講演内容もたいへんユニークで、心に迫ってくるものがありました。

午後の交わりは伝道団体メンバーの親睦会で、和気あいあいの雰囲気のおかげで進められました。ソング・ライズや佐藤豊久氏の賛美、演奏の間に百万人の福音やフレンドシップラジオの証しも織り混ぜられ、楽しいひとときとなりました。特に、



1 一泊研修会の参加者たち（恵みシャレーで）

最後に行なわれた各団体提供の空くじなしプレゼントに、参加者は大喜びでした。

■加盟団体の異動

クリスチャンAVセンターはいのちのことば社の働きに加えられましたので、退会となりました。

■来年度の活動予定

十月三十一日に今年第三回の常任委員会が開かれ、来年度の活動について話し合い、次のように決まりました。

- 来年度のテーマを「九〇年救霊への再献身」（ローマ二・一）とする。
- 新年情報交換会を二月十三日（火）午後一〜四時、OCCにて行なう。おしるこのサービス付き。
- 第六回定期総会を六月十八日（月）十時半より行なう。
- 一日フェスティバルを六月二十二日（金）十時〜二時半に行なう。
- 研修会を九月十日（月）〜十二日（水）、恵みシャレーにて行なう。今回は二泊三日で。

発行日	一九八九年十一月二十五日
発行者	本田弘慈
編集者	鴻海誠